株式会社 浜千鳥

27

極め細やかな顧客ニーズ対応による新しい高級清酒市場の開拓

Data
［代表者名］代表取締役　新里 進 ［設　　立］1923年10月
［実施場所］〒026-0045　岩手県釜石市小川町3-8-7
TEL.0193-23-5613　FAX.0193-23-0510
E-mail . info@hamachidori.net
［ＵＲＬ］http://hamachidori.net
［資 本 金］1,400 万円　［従業員数］15 名
［事業内容］日本酒の製造、販売

「外国料理に合う日本酒」という新分野の開拓で日本酒市場のシェア拡大を目指す

自社の高級清酒をブレンドしてつくる、外国料理（洋食）を引き立てる新たな「ブレンド清酒」の開発に着手。日本酒の味わいの指標となる４つの項目を自動で測定できる分析器を新たに導入し、商品開発を進めている。

「日本酒＝和食」という概念を覆す、新たな味わいの日本酒を開発

当社は大正12年に創業した造り酒屋である。できる限り地域で採れた酒米を用い、地元の水を使い、「地域で愛される味わい」を追求してきた。昭和60年代以降はより品質にこだわり、特定名称酒（高級清酒）を主体とした生産体制へと移行した。現在、社内で生産する清酒内で、高級清酒の比率は７割を超え、数々のコンテストや鑑評会で高い評価をいただいている。

近年日本酒は和食ブームの恩恵もあり世界的に注目を集め、海外輸出量が増加しているが、実は国内での日本酒市場は減少傾向にある。また、好調といわれる外食産業だが、日本酒のメインターゲットとなる和食関連の飲食店は減っており、一方でフレンチやイタリアンなど洋食の店が増えている。

これらの背景を踏まえ、これまでなかった視点である「外国料理（洋食）に合う日本酒」という新規分野を開拓し、日本人はもちろん、日本を訪れる外国人にも、より幅広いシーンで日本酒を楽しんでもらい、ひいては日本酒市場の拡大を狙えるような、新たな商品開発に着手した。

今や岩手を代表する銘酒のひとつに数えられる浜千鳥製品。

ブレンド技術を躍進させる、新たな分析器を導入

新商品は、当社が製造している高級清酒をブレンドすることでつくり上げる。本醸造酒や純米酒などと最高級酒である大吟醸酒をブレンドすることで品質を高め、本物志向でありながら手に取りやすい価格も同時に実現するものである。

今回の事業で導入した分析器。分析時間の短縮、正確性、再現性など、商品開発に大きな威力を発揮している。

酒のブレンド技術自体は、製造時期による差異の解消や出荷製品の品質安定のため従来から行われている手法であり、その分析も以前から行ってはいたが、新商品開発にあたりより正確な分析と再現性を確保するため、日本酒の味わいの指標となる「アルコール度数」「日本酒度（比重）」「酸度」「アミノ酸度」を一度に自動で測定できる分析器を新たに導入した。ブレンドする前の酒、ブレンド後のサンプルの分析に活用している。

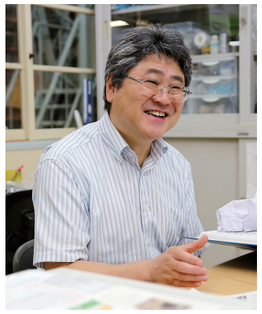
正確性・再現性に優れた分析器の導入で、効率的な商品開発が可能に

新しい分析器の導入により、これまで１検体30分以上かかっていた分析が10分にまで短縮できた。また、以前は目盛りや溶液の色の変化を目視することで計測していたが、数値がデジタル表示されることで測定する人による差や経験値による誤差がなくなった。

詳細で正確な分析は商品の再現性にもつながり、多数のサンプルを作成する今回のような商品開発に大いに力を発揮するものである。

ブレンド前の高級清酒が眠る蔵。新しい分析器により、この高級清酒の味わいの指標を常時測定、把握し、新たなブレンド清酒の開発につなげる。

来年中の新商品販売を目指し、開発を継続中



「浜千鳥」 代表取締役の新里進社長。「４項目の数値だけでは計れないのが日本酒の難しさ」と、商品開発の苦労を語る。

昨年７月の分析器導入以降複数のサンプル品を製作し、消費者、料理人、飲食店関係者などに試飲してもらい、そのアンケート結果やヒアリング内容を商品開発に反映させている。分析器を活用したデータの採取の他にも、実際の買い手の味覚を参考にすることでよりお客様に求められる商品を開発するためである。

本事業の主な目的は、洋食を好む日本人をターゲットに新たな日本酒市場を開拓するものであるが、同時に今後さらに増加するであろうインバウンドに向け、訪日した外国人にさまざまな食事に合う日本酒の魅力を知ってもらうことも目的としている。2019年にはラグビーワールドカップが、2020年には東京五輪が開催されることにも鑑み、来年中の新商品発売を目指し商品開発を進めているところである。

この新商品開発により、当社の主要商品である高級清酒をブレンド酒の材料としてさらに利用拡大できることはもちろん、新分野の開拓により、日本酒市場の拡大、また当社のブランドイメージの向上にも寄与するものと考えられる。